

足 監 査 第 7 2 号

平成21年10月26日

足利市葉鹿財産区管理者

足利市長 大豆生田 実 様

足利市監査委員 岩 崎 勝

足利市監査委員 岡 本 篤 典

足利市監査委員 常 見 登

平成20年度足利市葉鹿財産区特別会計歳入歳出決算
審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された平成20年度足利市葉鹿財産区特別会計歳入歳出決算を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出します。

平成20年度 足利市葉鹿財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

平成20年度 足利市葉鹿財産区特別会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

平成21年9月18日から平成21年10月26日

第3 審査の方法

審査に当たっては、管理者から審査に付された平成20年度足利市葉鹿財産区特別会計歳入歳出決算書及び附属書類と会計管理者及び担当部課が所管する諸帳簿等を照合し、計数の確認を行ったほか、事務事業及び予算の執行状況等について関係職員からの説明を聴取して行いました。

第4 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令にのっとり作成され、また、計数も関係諸帳簿、証ひょう書類と符合し、予算の執行もおおむね適正でありましたが、課題も認められました。

なお、歳入歳出差引残高は、出納閉鎖日現在における指定金融機関等の預金現在高証明書と一致し、正確であることを確認しました。

審査の概要は、次のとおりです。

- (注) ・ 本文中及び表中の金額は、原則として千円単位とし、千円未満は四捨五入しました。また、合計額及び内訳の数値が、個別の四捨五入と一致しない場合があります。
- ・ 構成比率(%)は、合計が100となるよう一部調整しました。
 - ・ ポイントとは、パーセンテージを比較した場合の単純差引数値です。

1 財政運営の状況

本年度の財政運営をみると、前年度に比べて歳入は21.0%減少し、歳出も17.5%減少しています。

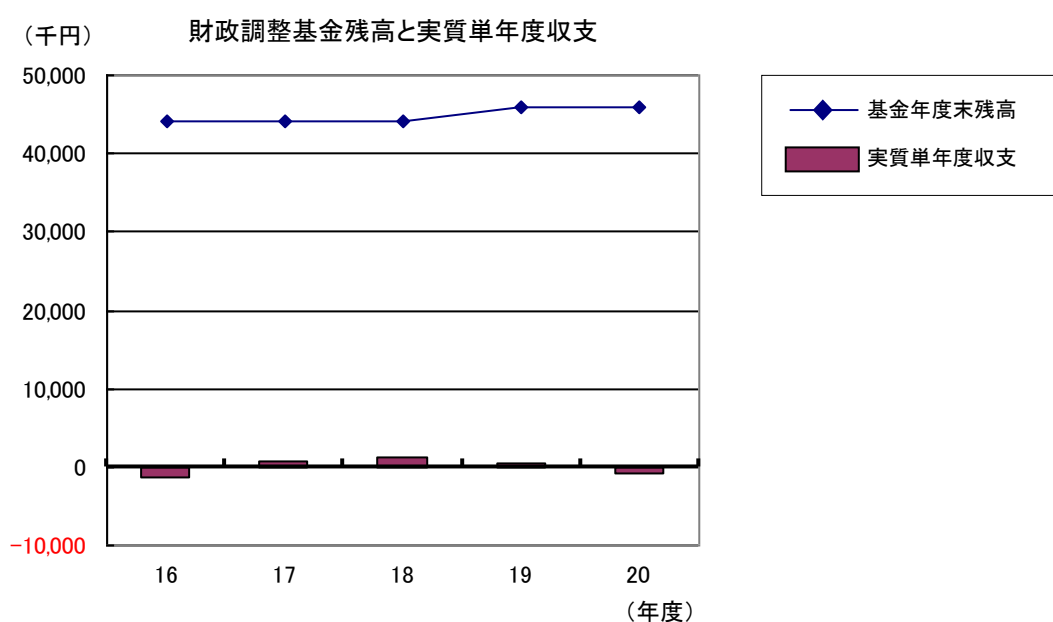
財政収支の状況をみると、本年度の実質収支946千円から前年度の実質収支1,601千円を差し引いた単年度収支は655千円の赤字となり、基金の積立取崩しはなく、実質単年度収支も655千円の赤字となっています。

歳入の構成は、主に駐車場使用料42.0%、土地貸付料33.1%、繰越金19.0%

となっており、また、歳出の構成は、主に一般管理費 43.0%、議員報酬 20.1%、繰出金 16.1%となっています。

また、負担金等については、他の財産区相互の会計区分及び市との一体性を損なうものが認められるので、是正が必要と思われま

す。なお、本財産区をとりまく経済環境が変化し、今後、駐車場使用料等の主要な財源が大幅に減少すると予測されますので、財源確保の方策を検討する一方、歳出を抑制しつつ、将来の財政安定のために財政調整基金の増額に努めるよう要望します。

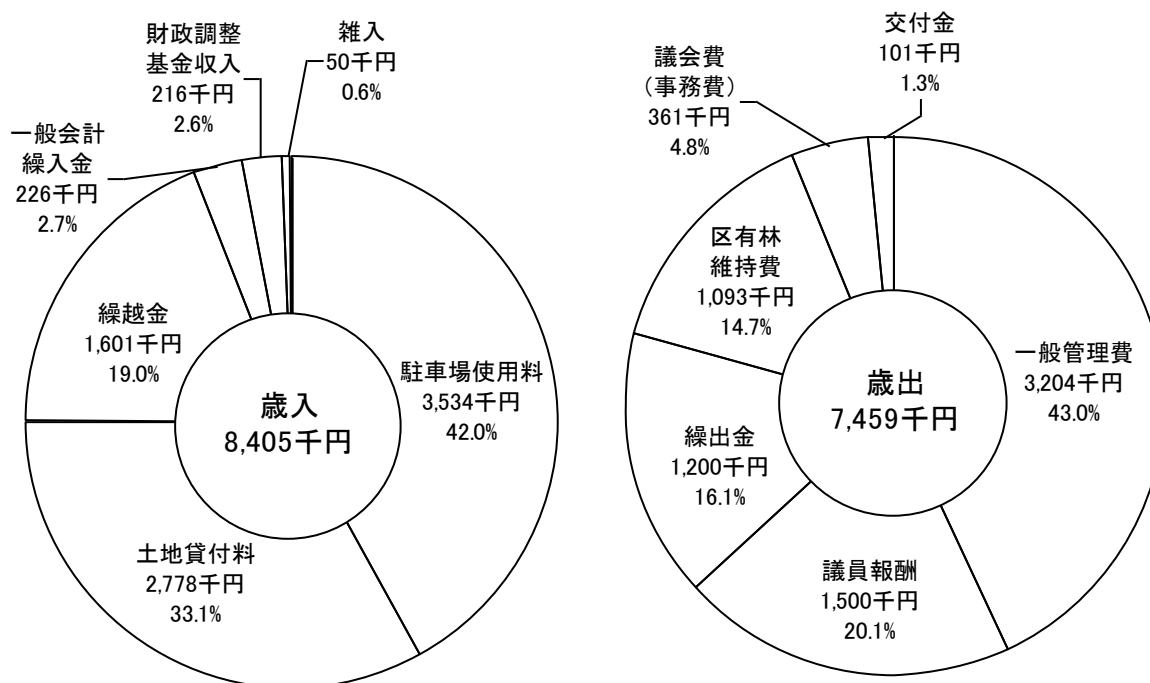


財産区は、地方自治法第294条等において、その所有する財産又は公の施設の管理及び処分が主たる目的で、財産の適正な維持管理を行うことにより、住民の福祉の増進に寄与するとともに、地区と市との一体性を損なわないように努めることが求められています。

また、地球環境の保全が求められ、森林が果たしている様々な機能が注目されています。郷土の貴重な緑を護るとともに、水源涵養という観点から、将来の展望を踏まえ、これに係る財産の確保と森林の育成に配慮されるよう希望します。

2 歳入、歳出

本年度の歳入歳出決算の構成比率は、次のとおりです。



(1) 歳入

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	収入率	
					対予算	対調定
20	8,400	8,417	8,405	12	100.1	99.9
19	10,500	10,803	10,644	159	101.4	98.5
比較増減	△2,100	△2,386	△2,239	△147	△1.3	1.4

歳入決算額は 8,405 千円で、予算現額に比べて5千円(0.1%)の増、収入率が100.1%となり、前年度に比べて 2,239 千円(21.0%)減少しています。

これは、主に繰越金が 1,471 千円(47.9%)、駐車場利用料が 477 千円(11.9%)、造林補助金が 310 千円(皆減)減少したことによるものです。

収入の主なものは、駐車場使用料 3,534 千円(構成比 42.0%)、土地貸付料 2,778 千円(構成比 33.1%)、繰越金 1,601 千円(構成比 19.0%)です。

調定に対する収入率は 99.9%であり、収入未済額 12 千円は、駐車場使用料です。収入未済額は前年度に比べ減少したものの、引き続き期限内の徴収に努めてください。

(2) 歳 出

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	支出済額	不用額	執行率
20	8,400	7,459	941	88.8
19	10,500	9,043	1,457	86.1
比較増減	△2,100	△1,584	△516	2.7

歳出決算額は7,459千円で、執行率が88.8%となり、前年度に比べて1,584千円(17.5%)減少しています。

これは、主に一般管理費の事務費が904千円(39.3%)、議会費の事務費が330千円(1,069.8%)増加したものの、積立金が1,900千円(皆減)、区有林維持費が758千円(40.9%)減少したことによるものです。

支出の主なものは、一般管理費の負担金補助及び交付金3,180千円(構成比42.6%)で、内訳は主に葉鹿地区自治会長連合会事業費補助金1,200千円、財産区共用車維持管理経費等負担金1,150千円)、議員報酬1,500千円(構成比20.1%)、繰出金1,200千円(構成比16.1%)、区有林維持費の工事請負費893千円(構成比12.0%)となっています。

また、不用額は941千円(11.2%)で、主なものは、予備費の272千円を除くと、財産管理費の需用費328千円及び委託料161千円、議会費の旅費75千円です。

なお、財産区共用車維持管理経費等負担金1,150千円については、負担の根拠となる実態を確認のうえ、会計区分の観点から適正な積算に基づく是正が必要と思われます。一方、葉鹿地区自治会長連合会事業費補助金1,200千円については、公益性の観点から事業計画等を精査し、市との一体性を損なわないようにしてください。

本年度の事務事業は、おおむね予定どおり執行されているものと認められました。支出の事務手続は、おおむね適正に行われていましたが、課題も認められました。

3 財産の管理

土地は、本年度中の増減がなく、年度末現在高が1,028,370㎡となっています。

立木の推定蓄積量については、本年度中に所有144㎡の成長があり、年度末現在高は10,712㎡となっています。

財政調整基金は、本年度中の増減がなく、年度末現在高が46,000千円となっています。引き続き基金残高の早期回復に努め、将来の需要に備えるようにしてください。財産の管理については、適正に行われていました。